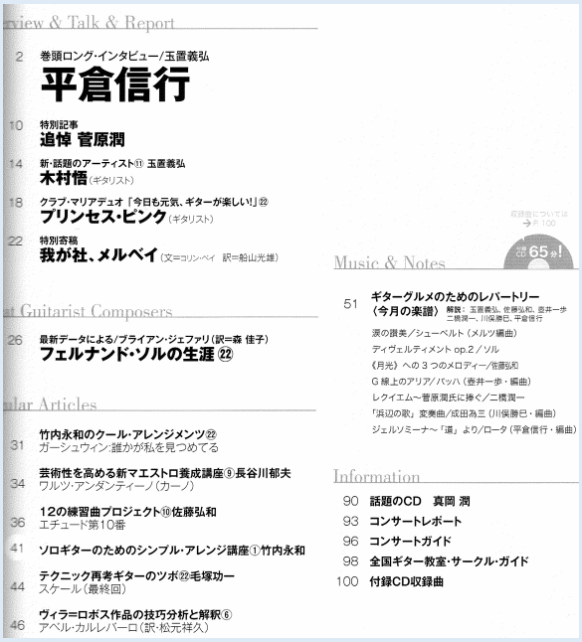
Guitar dream　NO.22(2010. 5)の紹介　by yakateru

表紙



メイン目次

【巻頭ロング・インタヴュー　抜粋・概要】　平倉信行

南米のポピュラー音楽系音楽を得意とするギタリストだそうです。話は、ギタを弾くきっかけから、南米の話、CD の話等々・・。

【(新)話題のアーティスト紹介　木村悟】

写真で見る限りは若そうですが、話を読んでいるとそうでもなさそうで。留学中にいろいろな先生に習っており、その人の印象を話してくれています。

- ホルヘ・アリサ：陽気で優しい人。でも、左手の運指には厳しかった。運指の美学を持っていた。
- ホセ・マヌエル・フェルナンデス：思慮深くて無口。ちょっと冷たい感じ。
- ジラルディーノ：恐ろしい人。レッスンには、相当のエネルギーを必要としました。
- ビスカルディ：「ギタリストのための超絶技巧練習」を書いてギターの可能性を追求した人。

あと、コンクールの国別違いについて。スペインは音色を重視し、イタリアは曲の構成を重視する。スペインでは、こうあるべき姿がありましたが、イタリアはもっと自由な感じでした、などなど・・

【クラブ・マリアデュオのインタビュー：プリンセス・ピンク】

なかなか派手な芸名のギタリストさん。本名は、椎野みち子さんといいます。ちなみにステージ衣装がオールピンクだそうで・・・。でも、人生経験はかなり壮絶です。暴力旦那との離婚、臨死体験・・・・

【新　マエストロ養成講座　第9回】

今回は、カーノの「ワルツ・アンダンティーノ」。懐かしい曲です。ちなみに、カーノはスペインのギタリスト兼お医者さんで、アグアドとも親交があったそうです。

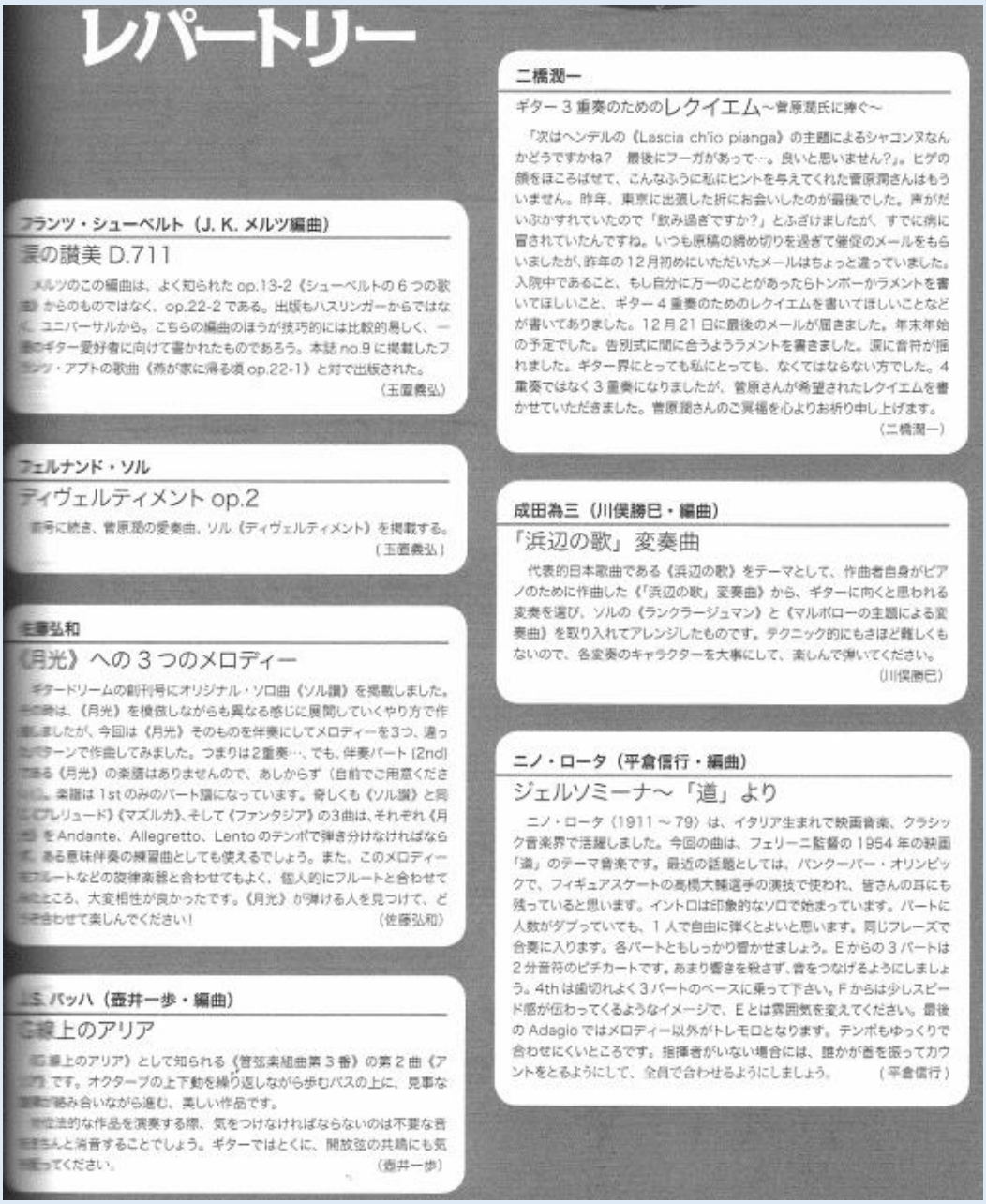
【新連載　ヴィラ・ロボス作品の技巧分析と解釈　第6回　カルレバーロ】

教則本で知っている「カルレバーロ」のヴィラロボス解釈が掲載されている。今回は、前回に続きプレリュード第 5 番の後半に関しての詳細な解説です。

【その他の注目すべき記事】

- 前号で Guitar dream を発行しているホマドリーム社の社長である菅原潤氏が、53 歳の若さで亡くなるという追悼記事があるが、今回も、追悼の記事が掲載されている。
- 「21 世紀のギター教本：佐藤弘和」： 12 の練習曲プロジェクト。今回はオクターブの練習で、佐藤氏オリジナルの結構ちゃんとした練習曲が掲載されている。結構高度な技術が要求されています。
- 「クール・アレンジメント：竹内永和」：ガーシュウィンの「誰かが私を見つめている」のアレンジ譜が掲載されています。
- 「ギターのツボ：毛塚功一」：第 22 回の最終回。拍子に乗ったスケール、拍子に束縛されないスケール等の演奏法のコツを解説しています。
- 「ソロギターのためのシンプルアレンジ講座（竹内永和）」：第 1 回が始まりました。最初の講座は、コード編ということで、ショパンの「ノクターン」が取り上げられています。

その他、「海外レポート」等もあります。第 22 号のメインは、そんなところでしょうか。
また、Guitar dream には、楽譜と模範演奏 CD がついている。今回は、下記の楽曲が掲載されている。



レパートリー

フランツ・シューベルト（J. K. メルツ編曲）

涙の讃美 D.711

メルツのこの編曲は、よく知られた op.13-2《シューベルトの 6 つの歌曲》からのものではなく、op.22-2 である。出版もハスリンガーからではなく、ユニバーサルから。こちらの編曲のほうが技巧的には比較的易しく、一般のギター愛好者に向けて書かれたものであろう。本誌 no.9 に掲載したフランツ・アプトの歌曲《赤が家に帰る頃 op.22-1》と対で出版された。

（玉置義弘）

フェルナンド・ソル

ディヴェルティメント op.2

前号に続き、菅原潤の愛奏曲、ソル《ディヴェルティメント》を掲載する。

（玉置義弘）

佐藤弘和

《月光》への 3 つのメロディー

ギタードリームの創刊号にオリジナル・ソロ曲《ソル讃》を掲載しました。その時は、《月光》を模倣しながらも異なる感じに展開していくやり方で作曲しましたが、今回は《月光》そのものを伴奏にしてメロディーを3つ、違ったパターンで作曲してみました。つまりは2重奏…、でも、伴奏パート（2nd）である《月光》の楽譜はありませんので、あしからず（自前でご用意ください）。楽譜は 1st のみのパート譜になっています。奇しくも《ソル讃》と同じく《プレリュード》《マズルカ》、そして《ファンタジア》の3曲は、それぞれ《月光》を Andante、Allegretto、Lento のテンポで弾き分けなければならず、ある意味伴奏の練習曲としても使えるでしょう。また、このメロディーをフルートなどの旋律楽器と合わせてもよく、個人的にフルートと合わせてみたところ、大変相性が良かったです。《月光》が弾ける人を見つけて、どうぞ合わせて楽しんでください！

（佐藤弘和）

J.S. バッハ（壺井一歩・編曲）

G線上のアリア

《G線上のアリア》として知られる《管弦楽組曲第 3 番》の第 2 曲《アリア》です。オクターブの上下動を繰り返しながら歩むバスの上に、見事な旋律が絡み合いながら進む、美しい作品です。

対位法的な作品を演奏する際、気をつけなければならないのは不要な音をきちんと消音することでしょう。ギターではとくに、開放弦の共鳴にも気を配ってください。

（壺井一歩）

二橋潤一

ギター 3 重奏のためのレクイエム～菅原潤氏に捧ぐ～

「次はヘンデルの《Lascia ch'io pianga》の主題によるシャコンヌなんかどうですかね？　最後にフーガがあって…。良いと思いません？」。ヒゲの顔をほころばせて、こんなふうに私にヒントを与えてくれた菅原潤さんはもういません。昨年、東京に出張した折にお会いしたのが最後でした。声がだいぶかすれていたので「飲み過ぎですか？」とふざけましたが、すでに病に冒されていたんですね。いつも原稿の締め切りを過ぎて催促のメールをもらいましたが、昨年の 12 月初めにいただいたメールはちょっと違っていました。入院中であること、もし自分に万一のことがあったらトンボーかラメントを書いてほしいこと、ギター 4 重奏のためのレクイエムを書いてほしいことなどが書いてありました。12 月 21 日に最後のメールが届きました。年末年始の予定でした。告別式に間に合うようラメントを書きました。涙に音符が揺れました。ギター界にとっても私にとっても、なくてはならない方でした。4 重奏ではなく 3 重奏になりましたが、菅原さんが希望されたレクイエムを書かせていただきました。菅原潤さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（二橋潤一）

成田為三（川俣勝巳・編曲）

「浜辺の歌」変奏曲

代表的日本歌曲である《浜辺の歌》をテーマとして、作曲者自身がピアノのために作曲した《「浜辺の歌」変奏曲》から、ギターに向くと思われる変奏を選び、ソルの《ランクラージュマン》と《マルボローの主題による変奏曲》を取り入れてアレンジしたものです。テクニック的にもさほど難しくもないので、各変奏のキャラクターを大事にして、楽しんで弾いてください。

（川俣勝巳）

ニノ・ロータ（平倉信行・編曲）

ジェルソミーナ～「道」より

ニノ・ロータ（1911～79）は、イタリア生まれで映画音楽、クラシック音楽界で活躍しました。今回の曲は、フェリーニ監督の 1954 年の映画「道」のテーマ音楽です。最近の話題としては、バンクーバー・オリンピックで、フィギュアスケートの高橋大輔選手の演技で使われ、皆さんの耳にも残っていると思います。イントロは印象的なソロで始まっています。パートに人数がダブっていても、1 人で自由に弾くとよいと思います。同じフレーズで合奏に入ります。各パートともしっかり響かせましょう。E からの 3 パートは 2 分音符のピチカートです。あまり響きを殺さず、音をつなげるようにしましょう。4th は歯切れよく 3 パートのベースに乗って下さい。F からは少しスピード感が伝わってくるようなイメージで、E とは雰囲気を変えてください。最後の Adagio ではメッセージ以外がトレモロとなります。テンポもゆっくりで合わせにくいところです。指揮者がいない場合には、誰かが首を振ってカウントをとるようにして、全員で合わせるようにしましょう。

（平倉信行）